

メッセージ「医療安全全国共同行動に期待する」

肺塞栓症・深部静脈血栓症友の会 江原 幸一

こんにちは。ただいま紹介いただきました「肺塞栓症・深部静脈血栓症友の会」の江原と申します。私の妻は2002年に長女を出産後、翌日肺塞栓症で倒れました。そして、53日後に天国に旅立ちました。そのときから肺塞栓症の予防の活動を進めております。

ちょうどその時期は、肺塞栓研究会を中心として静脈血栓症ガイドラインのまとめが行われていた時期でした。肺塞栓研究会の医師と一緒に厚生労働大臣に面会しまして、肺塞栓症の予防の保険適用を求めました。そして、妻が亡くなってから2年後、2004年に肺塞栓症の予防の保険適用が認められるようになりました。その後、患者会をつくりまして、ほかの患者会との交流を進めております。その患者会同士の交流の中で、患者中心の医療を目指してお互いに意見交換を行っております。

患者会同士で共通していることは、日本の医療をよくするために医療従事者、行政、製薬会社、マスメディア、患者が同じ方向を向いて病気と闘う、医療をよくしていくということで認識を共有しております。

社会問題になっている医療崩壊も、単に医師不足だけでなく、医療訴訟の問題を含めてコンビニ受診など患者側の問題もあります。患者自身が正しい知識を身に付けて、医療に患者自身が参加する社会になればよいと考えております。普通の方もいったん患者になると孤立してしまいます。そのような患者さんには、患者会が支援して正しい医療情報を提供して、患者自身が自立して治療を選択できるような社会をつくりたいと思っております。

ただいま、全国の患者会が患者会同士で連携して、それぞれの患者会が抱えている共通の課題を解決するために、横につながろうとしております。医療安全共同行動の参加団体は、現在のところ医療関連団体が占めておりますが、今後、全国の患者会がその参加団体に加わるように期待しております。

これまでに医療安全共同行動の地域フォーラムで、肺塞栓症の予防について講演をしてきましたが、その際に病院同士がいい意味で影響しあって、医療安全に向けて取り組んでいる様子をうかがいました。昨日も、「医療安全への患者参加」の分科会やポスター発表を拝見し、大変感動しました。この医療安全の取り組みを多くの患者さんに知っていただき、患者自身のモチベーションが上がることを期待しております。

患者の医療参加が進むことで医療従事者、製薬会社、マスメディア、行政と一緒に、医療の新しい関係を築いていただけることを期待しております。これからもよろしく申し上げます。

そして、先ほど李先生から医療安全に関わるきっかけになったいきさつのお話がありました。私自身も病院で妻が亡くなったときに、担当の看護師さんが涙を流していただきました。そのときに妻と私の夫婦の絆を認めていただいたように感じて、救われた思いがしました。病院スタッフの誠実な対応、正直な姿勢が患者や患者家族のこころのあり方を変えます。これからも誠実な医療を目指して皆さんの努力に期待しております。ご静聴ありがとうございました。